

『「食べるから繋がり合う」武庫が丘の笑顔』地域づくり活動NPO 事業助成(先導的、先駆的事业)

NPO法人 武庫が丘まちづくりビューロー

1 事業が目指すところ

当初、『「食べるから始まる」武庫が丘の笑顔～地域サロン・地域食堂～』をテーマにして、事業所名「コミュニティサロンYOU」を2018年(平成30年)7月1日正式にスタートした。

4年目となる今年度はテーマの文言をこれまでの経験を勘案し、「食べるから繋がり合う」と広げたいものにした。高齢化を迎え、①免許返納、体力の衰えなどから、送迎を含んだ事業とし、他方、②移行期としてこれまで同様の事業を柱とする必要があると判断したためである。事業の2本柱です。県ボランティアの助成事業としては、これまで同様の地域食堂を通して、地域の皆様が気楽に集える居場所作り、および高齢者の地域見守りモデル事業の促進、子どもの居場所づくりの推進に務めたいと考えた。

2 活動内容

(1) 高齢者や子育ての支援を行う事業

① 地域食堂(コミュニティサロンYOU)の運営：

当初は、火～金曜日の週4日、11時30分～14時を予定していたが、コロナ禍により、水、金曜日のみ、しかも持ち帰り→火、水、金曜日のみ、などの対応をせざるを得ない時期もあった。8月からは、火曜日を地域食堂として継続実施してきたが、1月末から、コロナの猛威を避けるため、残念ながら1ヶ月事業を中断した。



パーティションの設置

② こどもの居場所作り：

コロナ禍によってこどもの居場所作りの活動も大きく制限を受けた。小中学生の持ち帰り弁当を5月7日より週1回金曜に実施し、本事業の助成終了後も、2月の中断はあるが、継続実施している。また、6月末から夏休み期間の8月末までの8回、緊急支援として、必要な家庭に物資の支援を行った。コープこうべ三田西店、三田市、三田市社協の連携・支援を受けて効果的に行うことができた。

(2) 学びの場作りを通じた社会教育の支援を行う事業

①貸し教室事業：

長期休業時のこどもの居場所作りや学習支援講座などの学びの場の提供は、コロナ禍のもと残念ながら断念せざるを得なかった。ただし、隣の武庫が丘コミセンが長期に涉って休館しているなか、感染対策を行っている場として、自治会の緊急会合、地域放課後子ども教室の会合、継続実施している地域の高齢者、子どもさんのお弁当作りの唯一の貴重な場として提供することができた。

② 60歳からのピアノ教室、パッチワーク教室、活け花教室等、月、火を中心に社会教育の場の提供が可能な範囲ではあるが継続実施できた。

(3) 地域住民への生活支援を行う事業

①地域見守りモデル事業：

兵庫県地域見守り事業の助成事業を発展させ、8月からフラワータウン初の三田市通所型サービスB(高齢者ふれあいディサービス)事業＝「介護B」の委託事業を開始した。ニュータウンの住宅街という特殊な事情のため、サロンYOUという商業施設でなければ実施できない事業であるため、地域福祉の拠点として、三田市いきいき高齢者支援課、特別養護老人ホームゼフィール三田と緊密な連携をとりながら、見守り活動を継続実施している。

3 成果や課題点

今年スタートした介護Bの実施内容は、まさしく目標の「食べるから繋がり合う」の活動となった。午前の音楽療法を取り入れたフレイル予防、食事は黙食ながら、食後のコーヒータイムはマスクをしつつの会話、その後のミニ講座等、利用者の声を反映した、食を真ん中にした活動であり、地域の顔の見える関係がもたらす相乗効果を感じている。活動できる場があればこそ、これまでの事業の継続、今年度の新しい事業という2本柱が実施できた。助成事業の有り難さを痛感している。市の委託事業として2本柱を今後も継続していける希望が出てきたが、後はコロナの収束次第と考える。

4 今後の展望、成果の活用

小さな事業所ではあるが、利用者は、武庫が丘にとどまらずフラワー全域、さらにウッディ地域からの申込みもあり、この先駆的な取り組みに対して他地域の自治会関係者、民生委員さんも興味深く見守って下さっている。これまで積み上げてきたノウハウを他地域に伝え、先駆ではなくスタンダードな事業として取り組むことができるよう、努めていきたい。